

# 看護者の手袋装着等感染対策に対する易感染患者の認識

キーワード：手袋・易感染患者・認識

1病棟 10階東

岡手京子 松永理子 櫻井倫代 鬼松かおり 松本麻里 板垣伸子

## I. はじめに

近年の感染管理ではスタンダードプリコーションに則り、様々な場面で手袋装着が行われている。医療者の手袋装着に関しては感染症患者と非感染症患者の比較研究で、多くは手袋装着に肯定的であり不快感を示す者はいなかった。しかし、易感染という特異な状態を経験した患者では、手袋装着を行う理由に関する認識が異なっているのではないかと思い、本研究を行うこととした。日常的に行われる手袋装着が易感染患者に与える認識を明らかにすることで、医療者の日常的な感染予防行動における看護のあり方の検討を行った。

## II. 方法

対象 : H20年11～12月に1病棟10階東入院中で、易感染状態を経験したことのある患者。

調査方法 : 手袋装着に関する独自の質問紙を作成し配布、郵送で回収した。

倫理的配慮 : 任意参加であること、匿名性、収集したデータは本研究のみに使用することなどを説明する依頼文を質問紙に明記した。

## III. 結果

病状などを考慮し、同意の得られた12名に調査を行った。回収率は100%であった。

性別は男性7名、女性5名であった。年齢は20歳未満0名、20歳以上30歳未満1名、31歳以上40歳未満2名、41歳以上50歳未満1名、51歳以上8名であった。入院期間は1週間未満0名、1ヶ月未満1名、1ヶ月以上半年未満10名、半年以上1名であった。

看護者がケアを行う際に手袋装着が必要であるかとの問いに必要であると回答したものは11名、必要ない0名、どちらともいえない1名であった。どちらともいえないとした理由は「常時装着は採血等の感覚がわからないのでは」であった。(図1)

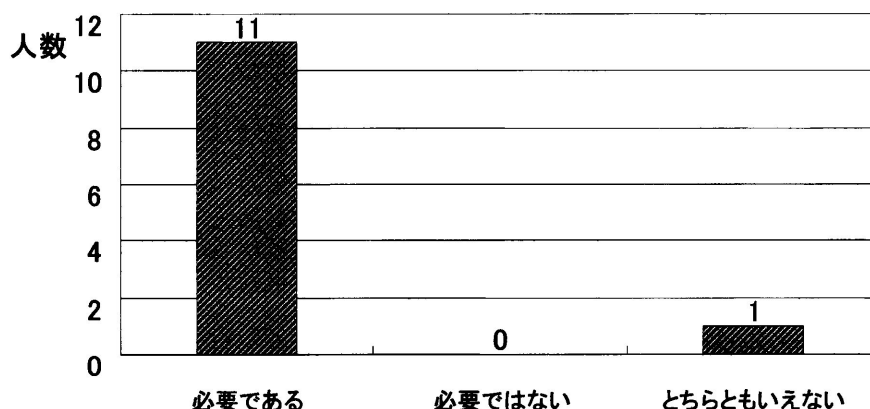


図1. 手袋装着が必要か

看護師が手袋を装着して行ったケアについては、他患者に行われたケアに対する認識と易感染患者自身に行われた場合の認識の回答を得た。

他患者に対して行われた場合では、当然だと感じる9名、清潔に感じる3名であり、不快に感じる、差別的に感じる、不潔に感じる、何も感じない、その他とする回答は0名であった。手袋装着に対しては「当然」・「清潔」とするプラス感情を患者は抱いており、「不快」・「差別的」・「不潔」とするマイナス感情を抱いている患者はいなかった。(図2)

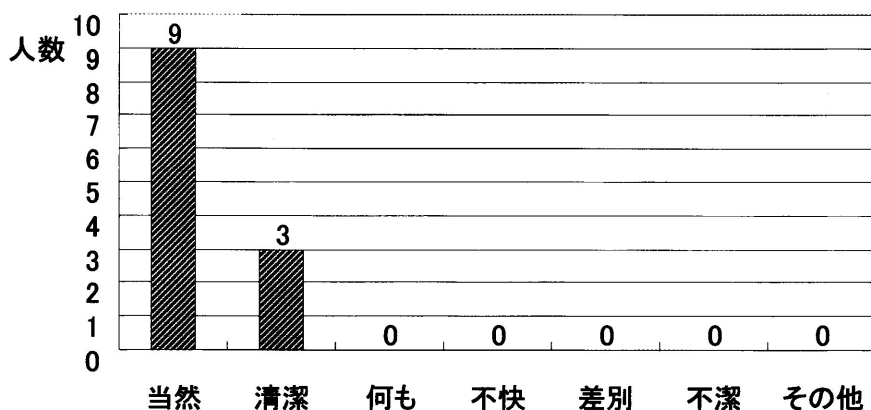


図2. 手袋装着で行われたケア - 他患者の場合

易感染患者自身が手袋装着で受けたケアに対しては、当然だと感じる9名、清潔に感じる3名、その他の選択肢は0名と他患者に行われた場合と同様の結果であった。(図3)

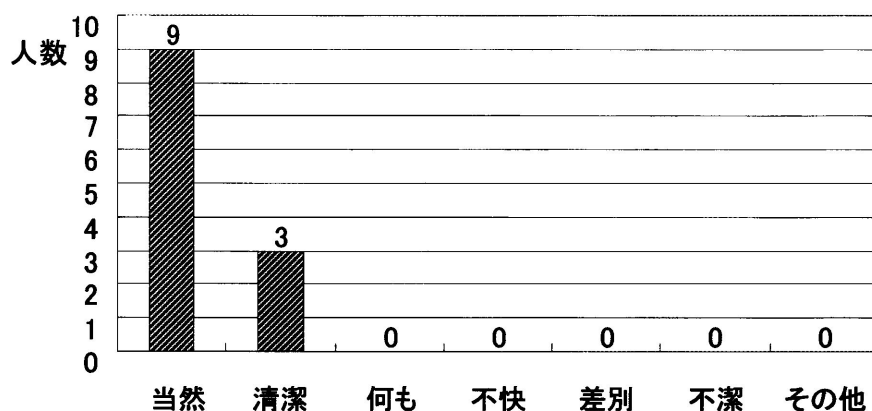


図3. 手袋装着で行われたケア - 易感染患者自身の場合

手袋装着に対する認識としては、「感染予防として当然の行為」、「医療者・患者間、患者・患者間の感染予防の為」、「感染に気を付けている本人にとって安心」、「感染し易くなっているの

てもらわないと困る」, 「患者が極めて感染し易い状態にあるとみなして対処すべき」という回答であった。

手袋の感触については, 何も感じない11名, その他1名「違和感はあるが慣れた」であった。

(図4)

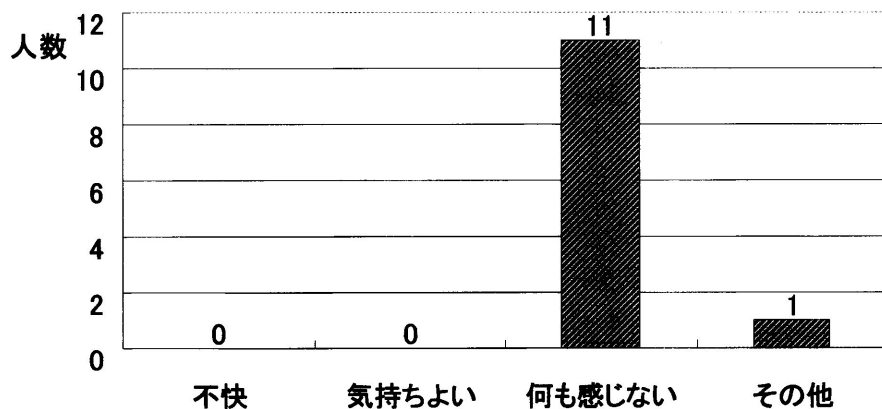


図4, 手袋装着の感触

医療者の感染予防行動をみて, 感染予防に注意しようと思うかとの問いでは, 12名が思うと回答した。(図5)

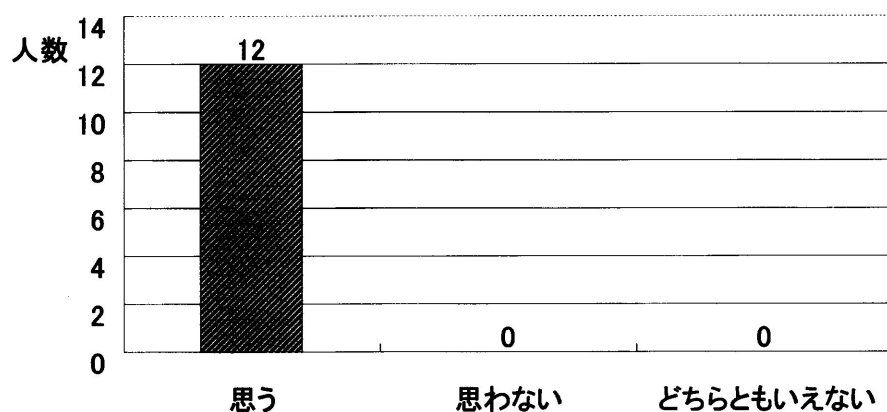


図5, 感染予防に注意しようと思うか

先行研究と同様に, 易感染患者は手袋装着に肯定的であり, 手袋装着が感染予防に重要かつ当然の行為であると認識している。また, 「感染に気をつけている本人にとって安心」とする認識から, 易感染患者が自身の易感染状態を十分に理解していること, 手袋を装着してケアを受けることに安心感を抱いていることがわかる。先行研究では, 感染症患者は自身の感染症の拡大を防ぐ

ために手袋装着は重要であるという認識を抱いていることがうかがえる。しかし、易感染患者では患者自身が易感染状態を十分に理解しているため、「患者が極めて感染し易い状態にあるとみなして対処すべき」とするように、感染防御的な認識がみられた。易感染患者では、感染症を自身に持ち込まない為の感染予防が重要であると認識していることがわかる。

#### IV. 考察

12名全員が医療者の感染予防行動から、感染予防に注意しようと思うと回答していることから、医療者の感染予防行動が患者に与える影響が大きいことは明らかである。医療者は手洗いや手袋装着等日常の感染予防行動を意識して行い、患者の心理的状況を理解して患者ケアにいかしていく必要があるということがいえる。

#### V. 結論

易感染患者は、手袋装着を衛生上・感染管理上必要であると認識しており、手袋装着に対して不快感を示す者はいない。易感染患者は、自身が感染しやすい状態であることを理解し、手袋を装着したケアを受けることを肯定的に受け止め安心感を抱いている。

#### 参考文献

- 1) 城生弘美, 高橋千尋: 看護職者の手袋装着に関する対象者の認識, 東京保健科学学会誌, 5 (1), 5-11, 2002.
- 2) 廣瀬裕子: 採血時の手袋着用に対する看護婦と患者の意識, 山梨県立中央病院年報, 28, 45-47, 2001.